

(NSCLC) : a final analysis of a large-scale erlotinib surveillance study (POLARSTAR). 15th World Congress of Lung Cancer 2013. Sydney, Oct.

- 6) 桑野和善. 加齢と呼吸器疾患. 第13回筑後呼吸器疾患研究会. 久留米, 9月.
- 7) 桑野和善. 加齢と呼吸器疾患. 第18回熊本呼吸器疾患ネット研究会. 熊本, 8月.

#### IV. 著 書

- 1) 桑野和善, 荒屋 潤. 第1章: 病態生理に関する最新の基礎的研究 16. オートファジーと呼吸器疾患. 別冊医学のあゆみ: 呼吸器疾患 state of atrs Ver. 6. 東京: 医歯薬出版, 2013. p.54-7.

#### V. その他

- 1) Yoshii Y, Kaneko Y, Gochi M, Saito Z, Samejima T, Seki A, Seki Y, Takeda H, Kinoshita A, Kuwano K. Medical thoracoscopy performed under local anesthesia is useful for diagnosing pleural metastasis of renal cell carcinoma. Intern Med. 2013; 52(11): 1203-5.
- 2) 齊藤那由多, 清水健一郎, 吉井 悠, 小島 淳, 石川威夫, 齊藤桂介, 桑野和善. 難治性癲癇患者に発症し, 診断と抗菌薬選択に苦慮した Acute Respiratory Distress Syndrome (ARDS) 合併重症レジオネラ肺炎の1例. 感染症誌 2013; 87(3): 389-92.
- 3) 戸根一哉, 吉田和史, 小田島丘人, 高木正道, 桑野和善. 巨大卵巣腫瘍を契機に発見されCPAPにより呼吸状態の改善を認めた Excessive Dynamic Airway Collapse の1例. 気管支学 2013; 35(3): 259-64.

### 総 合 診 療 部

教授: 大野 岩男 内科学, 尿酸代謝, 腎臓病学, 膠原病  
 教授: 吉田 博史 総合診療, 脂質代謝学, 医学教育, 臨床栄養学, 臨床検査学

(臨床検査医学より出向)

准教授: 大槻 穰治 外傷外科, スポーツ救急  
 准教授: 根本 昌実 総合内科学, 糖尿病学  
 准教授: 古谷 伸之 総合診療, 医学教育  
 特任准教授: 平本 淳 内科学, 総合診療, 消化器病学

講 師: 海老澤高憲 総合内科学, 糖尿病学, 内分泌学  
 講 師: 三浦 靖彦 総合診療, プライマリ・ケア, 臨床倫理, 腎臓内科, 透析

#### 教育・研究概要

##### 【本院】

専門診療科が中心となる当病院の内科診療部門において, 初診診療を中心とした機能を考慮し, 当科が担当する多岐にわたる症候・症状についての状況を分析している。当科を受診する患者において, 受診理由(主訴となった症状・症候), 初診・再診の有無, 初期診断名, 診療内容や転帰(他科への依頼や他院への紹介状況など)を担当医が診察後に記録している。集められた情報の内, 症状・症候名と診断名はプライマリ・ケア国際分類第2版(ICP-2)を用いてコード化し, データベース化している。特に初診症例を中心としたこれらのデータの蓄積により, 総合外来における, 特定の症候・診断名の分布など, 当科外来患者の特性を分析・考察することが可能と考えられる。

また本年度は, 平成25年度文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業「リサーチマインドをもった総合診療医の養成」に本学の企画が採択されたことから, 当科本院診療部長を委員長として学内横断的な総診GP推進委員会を立ち上げた。厚生労働省による「専門医の在り方に関する検討会」では, 総合診療専門医を基本領域専門医の一つとすることが平成25年4月に最終報告されており, 総合診療専門医の修得を目指す後期研修プログラムを, 当診療科が中心となって立案している。

## 【葛飾医療センター】

## 1. 教育

5年生臨床実習と6年生選択実習を担当し、ベクトサイドの教育を2週間行った。実習終了時に症例をレポートにまとめ、フルプレゼンテーションを評価した。また、5年生を対象としたクルズス「リンパ節腫張の鑑別診断」を毎月開催した。研修医、後期レジデントに対しては、毎日の臨床研修の中で診断鑑別診断、検査計画、治療計画、患者への説明という診療の総てにおいて主治医として担当した。毎週、症例のショート及びロングプレゼンテーションを行い、症例のまとめや発表能力の指導をした。

## 2. 研究

外来患者、入院患者治療経験から得られた症例を中心とした検討を行った。

1) 下垂体疾患、副腎疾患、甲状腺疾患や電解質異常を示す内分泌疾患の症例を中心とした検討を詳細に行った。

2) ビタミンB<sub>1</sub>代謝に関する研究を計画した。ビタミンB<sub>1</sub>は水溶性ビタミンに分類され平成21年国民健康・栄養調査では70歳以上の高齢者では食事摂取基準量は男女ともに不足傾向にある。特に脾臓はビタミンB<sub>1</sub>含有量が高く、欠乏によりインスリンの合成・分泌障害に影響を与えると考えられていることから、ビタミンB<sub>1</sub>の糖代謝に及ぼす影響についての検討を計画した。

## 【第三病院】

## 1. 高齢者の栄養管理に関する検討

高齢入院患者が増加する中、高齢者に必要なカロリー、水分量に関して臨床面から再検討している。

## 2. リウマチ性多発筋痛症に関する検討

当科で多く経験するリウマチ性多発筋痛症の治療について初期ステロイドの量、再発時の治療について検討した。

## 3. 高齢者の低ナトリウム血症に関する検討

高齢者に多い低ナトリウム血症の病態について臨床面から検討した。

## 4. 敗血症の診断に関する検討

敗血症の早期診断のマーカーとして白血球、CRP、プロカルシトニンの継時的推移について検討した。

## 【柏病院】

## 1. 地域医療における総合診療部のあり方に関する研究

柏市医師会との連携のもと県医師会主導の生涯教

育委員会、勤務医部会などを通じ地域医療を実践した。従来から継続している柏市保健衛生審議会委員としての立場から保健所との連携、柏市病院栄養士会、柏市行政、柏市医師会との連携を引き続き助力している、また、柏市における地域包括ケアシステムに、大学病院として参画できるよう努力しているところである。

2. 柏病院における学生の臨床実習、選択実習に積極的に参画した。

## 3. 大学病院・病院総合医としての立場の確立

近年、総合医の必要性が脚光を浴びているが、僻地におけるプライマリ・ケアを担当する総合医と、大学病院における病院総合医は、求められるものが異なる。そこで、柏病院における総合診療部に求められているものを通じて、大学病院・総合病院において求められる病院総合医像を確立し、後進の指導・育成に生かしたい。

## 4. 病院臨床倫理委員会、臨床倫理コンサルテーションチームの確立

高齢化社会・多死時代を迎え、大学病院内においても、臨床倫理的問題を重要視すべき状況となっている。病院機能評価においても必須とされている、臨床倫理的問題を扱う部門として、柏病院内にも病院臨床倫理委員会および臨床倫理コンサルテーションチームを設立する必要がある、総合診療部が核となって、活動する準備をしている。

## 【点検・評価】

## 【本院】

教育に関しては、平成20年度から、5年生の臨床実習において、内科の外来実習が組み込まれ、当診療科が中心となってカリキュラムを遂行している。毎週2～3人ずつの小グループを受け入れ外来診療の現場における医療面接の実際、診断学・症候学的な見地から診療の実際を教育している。今後、クリニカルクラークシップに基づいた外来実習をさらに推進する必要がある。

## 【葛飾医療センター】

教育に関しては、救急、入院患者の診療を通して広く内科一般の診断、治療に関して基礎的なアプローチ法について教育した。特に原因不明疾患の診断推論法について細かく指導した。内科急性期疾患（肺炎、脳梗塞、尿路感染症）の診療を通して卒後教育を行うことができたと考えられる。

研究に関しては、内分泌症例を中心とした検討を行い関連学会に報告し、論文（学会抄録）として発表した。ビタミンB<sub>1</sub>代謝に関する研究については、

高齢者において下腿浮腫や知覚障害を訴える患者にビタミンB<sub>1</sub>欠乏症を多く認めており、インスリン分泌との関連等を現在データ集計している。

### 【第三病院】

#### 1. 高齢者の栄養管理に関する検討

高齢患者には、従来言われているより少ない量のカロリーと水分補給が、患者の予後の改善、苦痛の軽減に寄与する可能性が示された。また、栄養状態の保持には、投与される栄養より、炎症などによる異化を防止することがより重要なことが再認識された。

#### 2. リウマチ性多発筋痛症に関する検討

初診時のCRP、MMP-3が高くない例では、従来よりも少ないステロイドでも効果があることが判明した。また、再発例でも前回と同様の治療で寛解にもって行ける例がある程度いることが判明した。

#### 3. 高齢者の低ナトリウム血症に関する検討

炎症など軽度ストレスにより、非浸透圧性にADH分泌が増加し起こるSIADHが高齢者には多いことが判明した。

#### 4. 敗血症の診断に関する検討

従来のマーカーの推移では早期診断には限界が存在することが判明し、新たなマーカーが必要と思われた。

### 【柏病院】

柏病院総合診療部は新設以来14年目を迎えた。診断困難事例に対応する総合診療医のメディアへの頻繁な登場、また、本学の建学の精神である「病気を診ずして病人を診よ」に現わされる診療態度の重要性に対する全国的な認知度も高まってきたためか、患者自らが総合診療部を受診希望する者が増加している。同時に、地域医療機関から総合診療部宛に紹介される患者も増加してきており、当地区における柏病院総合診療部の認知度は高まってきているようである。一方、東京慈恵会医科大学において未来医療研究人材養成拠点形成事業が採択されたことから、4病院総合診療部合同のカンファレンスも増え、倍旧の連携が推進され始めている。新年度に向けて、臨床倫理委員会及び臨床倫理コンサルテーションチームの立ち上げを目指しているところである。

## 研究業績

### II. 総説

- Ohno I, Hayashi H (Nippon Medical School), Anuma K<sup>1)</sup>, Horio M<sup>2)</sup>, Kashiwara N (Kawasaki Medical School), Okada H (Saitama Medical Univ), Komatsu Y (St. Luke's International Hosp), Tamura S (Mi-

yazaki Medical College), Awai K (Hiroshima Univ), Yamashita Y (Kumamoto Univ), Kuwatsuru R<sup>3)</sup>, Hirayama A<sup>4)</sup>, Saito Y (Nara Medical Univ), Murooka T<sup>5)</sup>, Tamaki N (Hokkaido Univ), Sato A<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Univ of Tsukuba), Takayama T<sup>4)</sup> (<sup>4</sup>Nihon Univ), Imai E<sup>5)</sup>, Yasuda Y<sup>5)</sup> (<sup>5</sup>Nagoya Univ), Koya D (Kanazawa Medical Univ), Tsubakihara Y<sup>2)</sup> (<sup>2</sup>Osaka Univ), Horie S (Teikyo Univ), Korogi Y (Univ of Occupational and Environmental Health), Narumi Y (Osaka Medical College), Hayakawa K (Kyoto City Hosp), Daida H<sup>3)</sup> (<sup>3</sup>Juntendo Univ), Node K (Saga Univ), Kubota I (Yamagata Univ); Japanese Society of Nephrology, Japan Radiological Society, and Japanese Circulation Society Science Advisory and Coordinating Committee. Guidelines on the use of iodinated contrast media in patients with kidney disease 2012: digest version: JSN, JRS, and JCS Joint Working Group. Clin Exp Nephrol 2013; 17(4): 441-79.

- 2) 大野岩男. 【痛風と高尿酸血症の最新治療】痛風の最新治療. 成人病と生活習慣病 2013; 43(8): 923-8.
- 3) 大野岩男. 医学と医療の最前線 尿酸代謝からみた心腎連関. 日内会誌 2013; 102(6): 1484-91.
- 4) 大野岩男. 【CKD ステージ G3 以降の診療と看護・生活支援】CKD 患者での造影剤使用法. 臨透析 2013; 29(6): 651-6.
- 5) 大野岩男. 薬物性腎障害. 都医雑誌 2013; 66(10): 1412-20.
- 6) 大野岩男. 危険因子 尿酸. 動脈硬化予防 2013; 12(3): 97-9.
- 7) 大野岩男. 【腎移植における新しい展開】【腎移植患者のフォローアップと合併症対策】高尿酸血症. 腎と透析 2013; 75(1): 80-4.
- 8) 大野岩男. 【造影剤腎症】造影剤腎症発症のリスク因子, 予後. Nephrol Fronti 2013; 12(3): 254-8.
- 9) 大野岩男. 高尿酸血症治療の発展 尿酸排泄促進薬からみた高尿酸血症治療 (第4回) 尿酸排泄促進薬と尿酸生成抑制薬の併用療法. 医薬の門 2013; 53(5): 320-4.

### III. 学会発表

- 1) 大野岩男, 西川 元. (シンポジウム I: 生体内における尿酸の役割) 腎臓に対する尿酸の影響. 第47回日本痛風・核酸代謝学会総会. 神戸, 2月.
- 2) 大野岩男. (教育講演 3: AKI の診断と病期分類) 造影剤腎症. 第56回日本腎臓学会学術総会. 東京, 5月.

### IV. 著書

- 1) 大野岩男. I. 巻頭トピックス 9. 「腎障害患者に

おけるヨード造影剤使用に関するガイドライン 2012] をめぐって、横野博史(岡山大)、秋澤忠男(昭和大)、山縣邦宏(筑波大)編。腎疾患・透析 最新の治療 2014-2016。東京：南江堂、2013。p.45-9。

2) 大野岩男。11.腎・尿路系の疾患 11-6.全身疾患と腎障害 2)痛風腎。矢崎義雄(国際医療福祉大)総編集。内科学。第10版。東京：朝倉書店、2013。p.1464-5。

## V. その他

- 1) 大野岩男。(テーマ：薬物性臓器障害)薬物性腎障害。日本医師会生涯教育講座。東京、8月。
- 2) 大野岩男。(ランチョンセミナー)腎不全時の高尿酸血症治療。第43回日本腎臓学会東部学術大会。東京、10月。
- 3) 大野岩男。(ランチョンセミナーⅡ)尿酸代謝からみた心腎連関。第47回日本痛風・核酸代謝学会総会。神戸、2月。

## 精神医学講座

教授：中山 和彦	精神薬理学，てんかん学
教授：伊藤 洋	精神生理学，睡眠学
教授：中村 敬	精神病理学，森田療法
教授：宮田 久嗣	精神薬理学，薬物依存
准教授：須江 洋成 (兼任)	臨床脳波学，てんかん学
准教授：忽滑谷和孝	総合病院精神医学
准教授：山寺 亘	精神生理学，睡眠学
講師：小曾根基裕	精神生理学，睡眠学
講師：小野 和哉	精神病理学，児童精神医学
講師：大淵 敬太	精神生理学，睡眠学
講師：塩路理恵子	森田療法，精神病理学
講師：館野 歩	森田療法，比較精神療法
講師：伊藤 達彦	総合病院精神医学，精神腫瘍学
講師：中村 晃士	精神分析的な精神医学，児童思春期精神医学
講師：角 徳文	老年精神医学

## 教育・研究概要

### I. 精神病理・精神療法・児童精神医学研究会

我々は、精神療法と精神病理学的研究、および児童精神医学分野の研究を施行している。我々は精神科外来における発達障害の治療システムの研究している。また、発達障害と精神障害に共通する「注意障害」に関してその相違の研究を開始した。この結果、統合失調症に比して自閉症スペクトラムでは一つのことに集中を維持する機能は保たれるものの、いくつものタスクが加わると、注意・集中の維持が困難になる傾向があることが明らかになってきた。精神療法では、従来より研究してきたDBT(弁証法的行動療法)の日本での汎用化のための技法の開発とその実践、また自閉症に関する構造化治療法である日記療法を開発中である。我々の社会精神医学的研究チームはホワイトカラーの就労者における「うつ」の要因について研究を施行している。この研究では、男性は、職場での過剰適応傾向がその完全主義的性格傾向を背景に強く、うつと結びつきやすいこと、一方女性では、関係性においてのとらわれが、完全主義的傾向を背景に、職場にても家庭においても展開し、疲弊することでうつと結びつきやすいことが、明らかになった。